

# 尾辻克彦 × 赤瀬川原平

## 文学と美術の多面体展



トマソン黙示録シリーズ「風のレコード大盤」(三鷹市美術ギャラリー蔵)

お札、缶詰、壊れたポット、家具、ペット・・・果ては自邸「ニラハウス」に至るまで、日常生活を構成するあらゆるものを独自の視点と観察行為によって、〈梱包〉や〈トマソン〉に代表される「作品」へと昇華させてきた美術家・赤瀬川原平。

自身と娘の生活をテーマにした『肌ざわり』や、父の死により墓所を見学する様子を描いた『父が消えた』によって、私小説作家として文壇に登場した作家・尾辻克彦。

実は同一人物である美術家・赤瀬川原平と作家・尾辻克彦の創作の根底には、冷静な観察者としての姿勢と、「価値の転換」「日常の異化」への共通した意識があります。それらは、辞書の用例の中に個性を見出し、愛すべき人格を与えた『新解さんの謎』や、もの忘れや脱力を積極的に肯定する「老人力」シリーズなどのエッセイを通じて顕在化し、常に新しいユニークな「ものの見方」を我々に提示してきました。

本展では、美術家であり作家である以前に、ひとりの意識的な生活者として、日常の中に潜むナゾに真摯に向き合い、常識を疑う姿勢を貫く希代の創作者の「創造の秘密」に迫ります。



夜のニラハウス2014 ©タカオカ邦彦



芥川賞受賞作『父が消えた』と正賞の懐中時計



赤瀬川家の猫コレクション

**関連イベント** イベント参加には赤瀬川展チケットが必要です

2014年10月19日(日) 14:00~16:00  
**映画「利休」上映会**  
 定員: 70名(申込順)  
 会場: 町田市民文学館2階大会議室  
 申込: 町田市イベントダイヤル(042-724-5656)にて  
 10月1日(水) 正午より受付

2014年11月24日(月・祝日) 14:00~16:00  
**久住昌之(漫画家)**  
**「赤瀬川さんの思い出**  
**-美学校絵・文字工房とガロの時代-**  
 定員: 60名(申込順)  
 会場: 町田市民文学館2階大会議室  
 申込: 11月11日(火) 正午より、文学館へ直接電話で申込

2014年11月2日(日) 14:00~16:00  
**林文二(イラストレーター)&**  
**南伸坊(エッセイスト)**  
**「放談! 赤瀬川原平さんというひと」**  
 定員: 80名(申込順)  
 会場: 町田市民文学館2階大会議室  
 申込: 町田市イベントダイヤル(042-724-5656)にて  
 10月11日(土) 正午より受付

2014年12月6日(土) 14:00~16:00  
**浅生ハルミン(イラストレーター)**  
**「赤瀬川原平さんの魅力**  
**-猫ストーリー的視点から-**  
 定員: 60名(申込順)  
 会場: 町田市民文学館2階大会議室  
 申込: 11月11日(火) 正午より、文学館へ直接電話で申込

2014年11月16日(日) 10:00~16:00(途中休憩を含む)  
**糸崎公朗(写真家) ワークショップ**  
**「実践! フォトモ 町田を歩く」**  
 定員: 15名(申込順)  
 会場: 町田市民文学館2階大会議室及び周辺地域  
 申込: 10月21日(火) 正午より、文学館へ直接電話で申込  
 ※参加者はデジタルカメラ持参のこと  
 ※対象者は小学校高学年以上  
 但し、小学生には保護者の同伴を要する

**ギャラリートーク**  
 10月28日(火)、11月11日(火)、11月30日(日)、  
 12月21日(日)  
 14:00~(40分程度) / 申込不要  
 ※町田市民文学館2階展示室に直接お集まりください。

同時開催  
**千葉市美術館「赤瀬川原平の芸術原論 1960年代から現在まで」**  
 2014年10月28日(火)~12月23日(火・祝日)  
 観覧時間 / 10時~18時(入場は17時30分まで) 金・土曜日は、20時まで閉館(入場は19時30分まで) 休館日 / 毎月1月曜日(祝日の場合は翌日)  
 ※本展のチケット半券(有料券のみ)の提示で、千葉市美術館の上記展覧が割引になります。一般1000円→800円 大学生700円→560円 小中学生・高校生は無料

### 赤瀬川原平 / 尾辻克彦

1937年神奈川県横浜市生まれ。幼少期から絵が好きで、中学時代より油絵を描く。美術科のある高校を経て、武蔵野美術学校油絵科に学ぶ(のち、中退)。58年より読売アンテナ展に出展。「ネオ・ダダイズム・オルガナイザー」に廃品を活用した大型のオブジェを出品し、63年より「ハイレッド・センター」を結成し前衛美術家として活動する一方、梱包作品を制作する。制作の過程で千円札を印刷したことにより、65年通貨及証券模造取締法違反に問われた(千円札裁判)。79年、小説『肌ざわり』で中央公論新人賞、81年には『父が消えた』で第84回芥川賞を受賞した。1984年以来約30年にわたり町田を拠点に創作活動を続けている。



### 町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田4-16-17 TEL 042-739-3420  
 JR 横浜線「町田駅」ターミナル口から徒歩8分 小田急線「町田駅」東口から徒歩12分